

世田谷区本庁舎等整備基本構想検討委員会報告会グループワークにおける主な意見

本庁舎整備の必要性について

どうして本庁舎整備が、今必要なのか。説明不足ではないか。
例えば子育て施設など、優先してお金をかけるべきところがあるのではないか。
建てかえなければならない理由が見えてこなかった。

世田谷総合支所について

世田谷総合支所を本庁舎と一緒にするのか、あるいは別の場所につくるのか、それを先に検討してから本庁舎の中身を詰めてはどうか。
世田谷総合支所は、本庁舎と一緒に、今のような状況が良い。
三軒茶屋など、本庁舎と別のところにすべき。

本庁と総合支所の役割分担について

防災面でもリスク分散という点で、本庁舎に全部、防災機能を集約するということではないのではないか。
一極集中しないのが良いことではないか。
本庁舎と総合支所の機能をより明確にしていく必要があるのではないか。
何でもここに一極集中しようとしている感じに見える。
昔、世田谷は、分散してそれぞれの地域で、身近なところでまちづくりを進めるということではなかったか。
1カ所にまとめるのが良いことではないのではないか。司令塔としての機能は必要だが、実際の防災拠点というのは色々なところにあっても良いのではないか。
地域単位のまちづくりが前提で、その上に区庁舎があるという組み立てが良いのではないか。

床面積について

これから先の世田谷区庁舎のあり方としては、本庁舎は縮小し、地域にある総合支所を充実させていく方向にあるべき。本庁舎に必要な面積は縮小されていくのではないか。
床面積が増加することは疑問。
現在の本庁舎はどれ位の面積があり、それと新庁舎の面積とを比較して示してもらわないとわかりにくい。
本庁の役割は何なのか、本庁の防災機能は何なのかというところをより明確にしていかないと、本庁の床面積が出てこないのではないか。
地下を活用できるのではないか。
一人何㎡というのは、確かに目安としてはわかるが、部署により必要な面積は違う。もっときめ細かく見て、本当に必要な面積を出していくべき。

本庁舎と総合支所、両方を一体的に考え、機能もきちんと考えていく必要があるのではないか。

人口が減るのに床面積が増えるというのがどうしても納得できない。

総合支所に防災拠点機能をどれ位分散化できるのか。それによって数字が変わってくるのではないか。

最初は必要最小限につくっておいて、将来的に増築できるような段階的な整備の考え方というものもあるのではないか。

本庁舎に必要な機能は一体どんなものなのかということを押縮して考えることができれば、規模にも反映することができるのではないか。

規模が小さく済めば保存部分も大きく確保することができる。その結果、総合的に予算が下がれば区民は大歓迎だと思う。

将来の世田谷の姿を描かずに建物を構想するのは不安が残る。区の職員も減っていくことになれば、むしろたくさん面積を使うことになる。

コストについて

維持管理を見直すということがなぜ出てこないのか。

もう少しコストダウンの提案が欲しい。

どこから建て替えの費用を出すのか、もう少し詳しい情報を提供してほしい。

m²あたり40万4,000円となっているが、身の丈に合った計画ができると良い。

ランニングコストが非常にかかるはずだが、全然話に出てこない。

建設後の運営やオペレーションのことも含めて提案するような仕組みも必要ではないか。

設計と施工の分離発注だと絶対コストが膨らんでしまう。一体で発注するほうが絶対良い。ゼネコンもコストを圧縮するノウハウを蓄積してきている。

財源について

1階部分にテナントを入れるなどの財源の確保の仕方もあるのではないか。

収益性を高める工夫、可能性をどんどん図っていくという方向が良いのではないか。

区民の今ある暮らしにマイナスの影響を及ぼしてはならない。

全部区のお金でなくても、例えば寄附であるとか、ふるさと納税であるとか、そういう一般の方からの資金を募って少し庁舎の財源にするということも考えて良いのではないか。

無駄に高いものをつくっても次の世代に借金を残すだけ。もう少し工夫すべき。

現庁舎の特徴の継承について

古い建物の価値が必ずしも区民全体に広がっていない。

この建物が保存するほど重要なのか。

現庁舎の特徴を継承するリノベーションの視点について、外側を残して内側を何とか効率よく活用できないか。

外観を何とか保存するというだけでも原風景として残せないか。

環境性能を上げるということで、CO2をなるべく少なくするための建てかえの方式、スケルトンタイプで建てかえてほしい。

今のケヤキの木を増やして森をつくっていく。森の中には花も香りも光もあるようなものをつくっていくような、そういう区庁舎のあり方があるのではないか。

中庭も含めて、水と緑がある風景。そういう雰囲気も含めて前川建築を残していけないか。なぜ残せないか。例えば組織の再編成のあり方であるとか、防災的な機能の役割分担のあり方であるとか、その辺がどうもはっきりしなくて、本当に残せないのかどうかというのがよくわからない。

コンクリートの強度を試験する予算が削られた。物理的に本当に残せないのかという議論も実はまだまだ足りていない。

この窓を開くと、その窓の向こうには、実はケヤキの木立が見えるという非常に感動的なシーンをこの建物はあちこちに持っている。そういう実体験に基づいたことできちんと保存を考える必要があるのではないか。

今ある水と緑の風景がとても好きだ。噴水があって、子供がはしゃいでいる。そういう日常的な風景を何とか残すことができないか。

前川國男氏の建築に関しては、価値がいろいろなところで言われている。それに対して、今、容易にこれをなくして良いのか、将来に禍根を残すのではないか。

残すにしても形だけ残していくというのはおかしい。主に広場が象徴しているが、前川氏の理念を継承するような、その理念を大切にしながら、次の建築を目指していくのが良いのではないか。

この建物はとてもすばらしいので、用途変更しても残したほうが良い。

現庁舎を残すということであるならば、その重要性をもっと広くPRしていく必要があるのではないか。

建物単体としての価値もさることながら、最初は区民会館と中庭ができて、その次に庁舎ができたという順番なので、その区民会館の意匠は今、日本の中でもかなり貴重なものになってくるので、建物の価値として残していくべき。

コルビュジエの建築が世界遺産になることが説明されていたが、日本人が日本人の建築家がつくったものをちゃんと残すのだというような意思表示をする。世田谷のシンボルとして残していくのだという価値も大事だ。

今の現庁舎を何とか残していけないか。それは建物と広場も含めて、特に広場は緑が多くてとても雰囲気が良いので何とか残していきたい。

建物について

古い建物を大事に使えば快適な環境ができるのではないか。

新しい建物になることによって職員の方の働く環境が改善され、モチベーションアップにつながるのではないか。

コンクリートから木造建築へ変えていくというような個性ある区役所が良いのではないか。

50年後にも価値があるものをつくっていかなくてはいけない。
長続きするということは実は可変性があるということ。大きなフレームだけつくって中は自由に変えられるような、そういうような仕組みのプランをつくったらどうか。
その中に必ず区民の活動スペースが入っているというようなことも大事である。
建物の高さは8階ではなくて6階位に抑えるべきではないか。
日本の資源である木をもっと生かした施設づくりというのも考えていく必要があるのではないか。

敷地中央の区道について

中央の区道の廃止や歩行者自転車道にするという話があったようだが、例えばその路面を緑にしていくなとか、そういう緑を増やしていく工夫はたくさんあるのではないか。
中央区道は廃止をして、そこにも建物を建てたり、あるいは地下を有効活用するということも考えて良いのではないか。
世田谷の歴史がわかる、文化がわかる道なので、廃止は絶対反対。その代わり自転車道などにして、整備がしやすいようにする位置づけが良いのではないか。

みどりについて

世田谷はみどり率33%を目指しているのに何で28%なのか。もっと積極的にみどり率を高めるようにしていくべきではないか。
「みどり33」と言っているのだから、みどり率33%を超えるようにすべき。

区民会館について

もう少し使いやすく、あるいは床面積を増やしても良いのではないか。
今のままでは不便だ。災害時、地震などのことを考えると天井の問題とかいろいろ危険も考えられるので、区民会館に関しては残してほしい。
やはりつくりかえていくべきではないか。
近くに民間の高性能なホールがあるので、連携したらどうか。
ホールは多目的にするのではなく、個性あるものに焦点を当てたものをつくる。それを企業などの寄附でつくり経費を浮かすこともできるのではないか。

ユニバーサルデザインについて

本庁に来る方が、トイレが中階段にあたりしてとても使いにくい。
ここに来る区民がもっと使いやすい、憩いの場にもなっているという場になってほしい。
働く人たちももっと働きやすいユニバーサルデザインの環境でいろいろな人が働けるような場になってほしい。

防災について

防災は個々が本当にやらないといけない。行政に頼っている場合ではないのではないか。防災拠点としての機能というのは大事なので、そこは大切に考えるべき。

区役所周辺の交通、世田谷線の踏切が閉まったままになり交通機能が大変なことになった。周辺のこととも考えていく必要がある。

被災したときに自然のエネルギーなどがしっかり確保できているか。備蓄がしっかりあるか。テントなどを提供できるのか。

前提条件について

計画の前提条件、次に建てかえる庁舎を100年残すようなものにするのかどうかなど、そういう前提条件がまだ書かれていないのではないか。

人口推計とかこれからの暮らし方がどうなるかみたいなのもあわせてそういう前提条件があるのではないか。

これからの区役所について

これからの区役所には、事務所としての機能だけではなく、フェース・ツー・フェースとともに考えたりコミュニティの場、あるいは交流の場としての機能が求められるのではないか。

区民も区職員も両方使えるような会議室があったり、個人の机が決まっていない働き方というのが出てきている。そういうことももっと区でも取り入れてはどうか。

新しいネットワークを活用して、新しいサービスを検討してみても良いのではないかと。

区民と区民、区民と行政とのコミュニケーションが様々な形で持てるような場があちこちにあるのが世田谷らしいのではないかと。

今後の進め方について

9月の素案の段階で、区からの説明会をしてほしい。区民の意見を改めて吸い上げてほしい。

設計者のプロポーザルでは、前川建築などに対して、どういう意見を持ってこれからの景観をつくっていくのか、そういうものをしっかり聞く項目を入れてはどうか。

その他

そもそもの建てかえの位置をここに限定する必要があったのか。国家公務員住宅跡地なども候補になるのではなかったのか。

子供がすごく増えるので、屋上に保育園、保育所を設置したらどうか。